

# 市民のこころを育みつなげる「安心安全な庁舎」

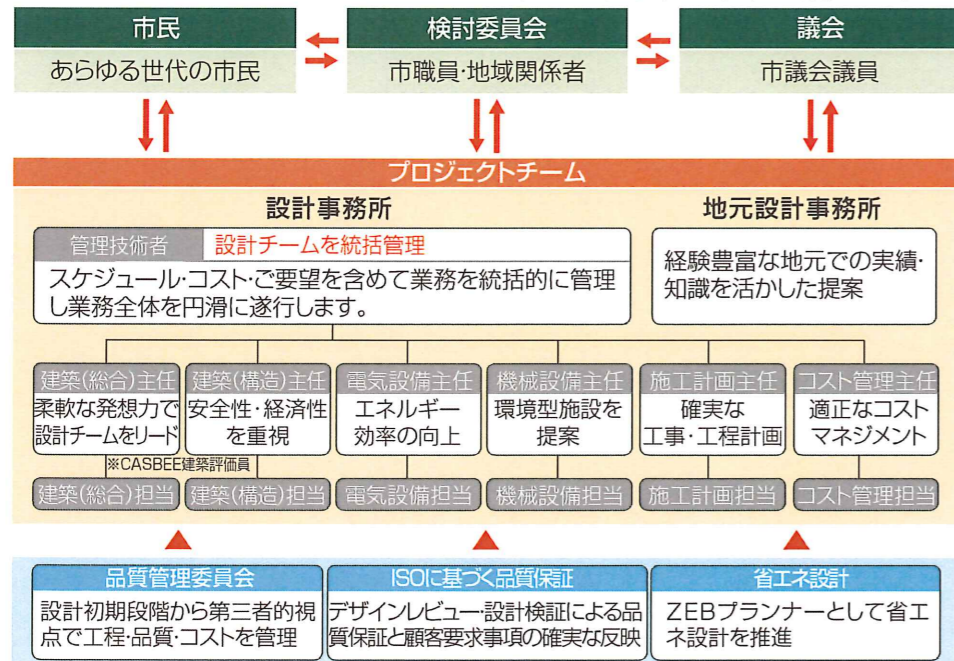
始良市には歴史豊かな風土を物語る文化財や史跡が数多く残されています。これら先代が育んだ、継承物を後世へとつないだスピリットを大切に、始良のシンボルである「蒲生の大クス」のような、強く、温かみのある長寿命な庁舎づくりを目指します。



役場前通り線から見た外観イメージ

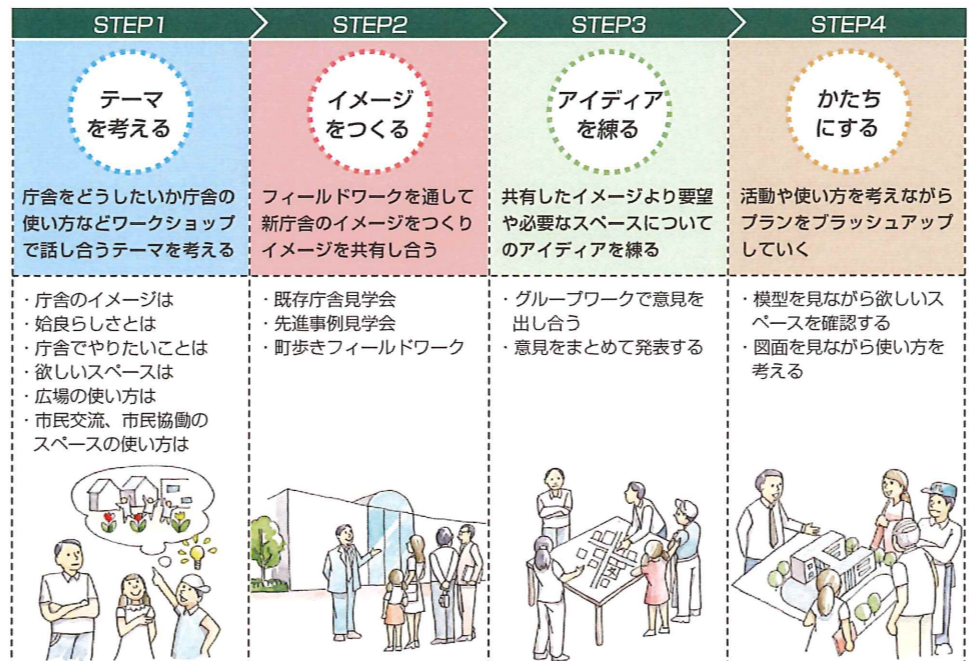
## 1 業務の取り組み体制

- スタートラインから皆様をサポート
  - 多くの皆さまが関わる庁舎設計では「検討体制の確立」と関係者の「意見集約・調整」が重要です。これらの舵取り役として、スタートラインから常に皆様をサポートします。
  - 市民・検討委員会・議会の三者と、設計者が相互理解を深めながら協働する検討体制を提案します。
- 公共施設設計のエキスパートチーム
  - 公共性の高い施設の設計実績を活かし、全社的な支援体制のもとに、多様な視点から設計内容を検証します。
- 地元設計事務所との協力体制
  - 始良特有の地域特性や歴史・風土を計画に反映し、迅速な対応と細やかなアフターケアを行います。



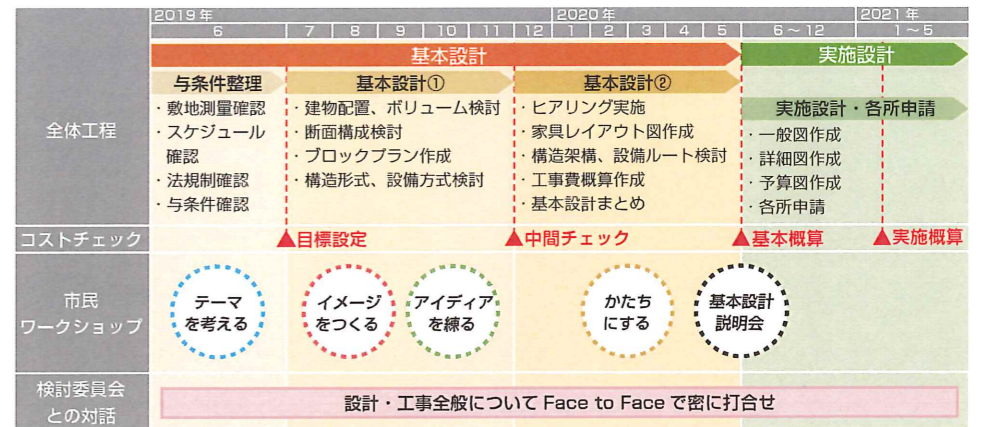
## 2 みんなで育てる始良の庁舎

- ワークショップによる市民との協働
  - 想いや要望、地域の個性を引出し自分たちでつくった実感と愛着を持てる庁舎づくりを実現します。
  - フィールドワークやグループワーク、模型を使った検討などを通して、新庁舎に対する要望や必要なスペースを把握し、それを実現する方法を市民と共に検討します。
- 模型やパース等を活用したわかりやすい表現
  - スタディ模型やスケッチパースを用いて、テキストや言葉だけでは伝わりにくいイメージの視覚化・具体化を行い、空間やデザインのイメージ共有を図ります。
  - VRを利用し、基本設計段階から三次元モデルで検討を行い、わかりやすい型で計画を提示します。



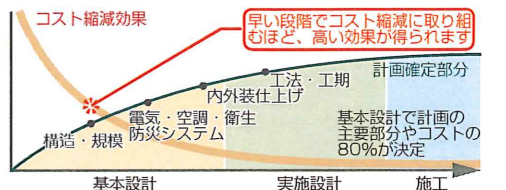
## 3 設計を進める上で特に配慮する事項

- 手戻りのない円滑な業務遂行
  - 建物の骨格である構造計画や設備計画など、コストと品質の大部分が決まる基本設計プロセスを最も重視します。
  - 「いつまでに何を決めるか」を見える化した設計工程表を作成し、決定のタイミングや課題解決のスケジュールを共有化します。
- 皆様の想いや要望を引出す打合せ
  - 検討委員会との打合せを必要に応じて行い、Face to Faceの密な打合せで要望を確実に設計へ反映します。
  - メリットとデメリットを明確にした案を複数案提示し、比較検討を十分に行い、最適な計画を導き出します。

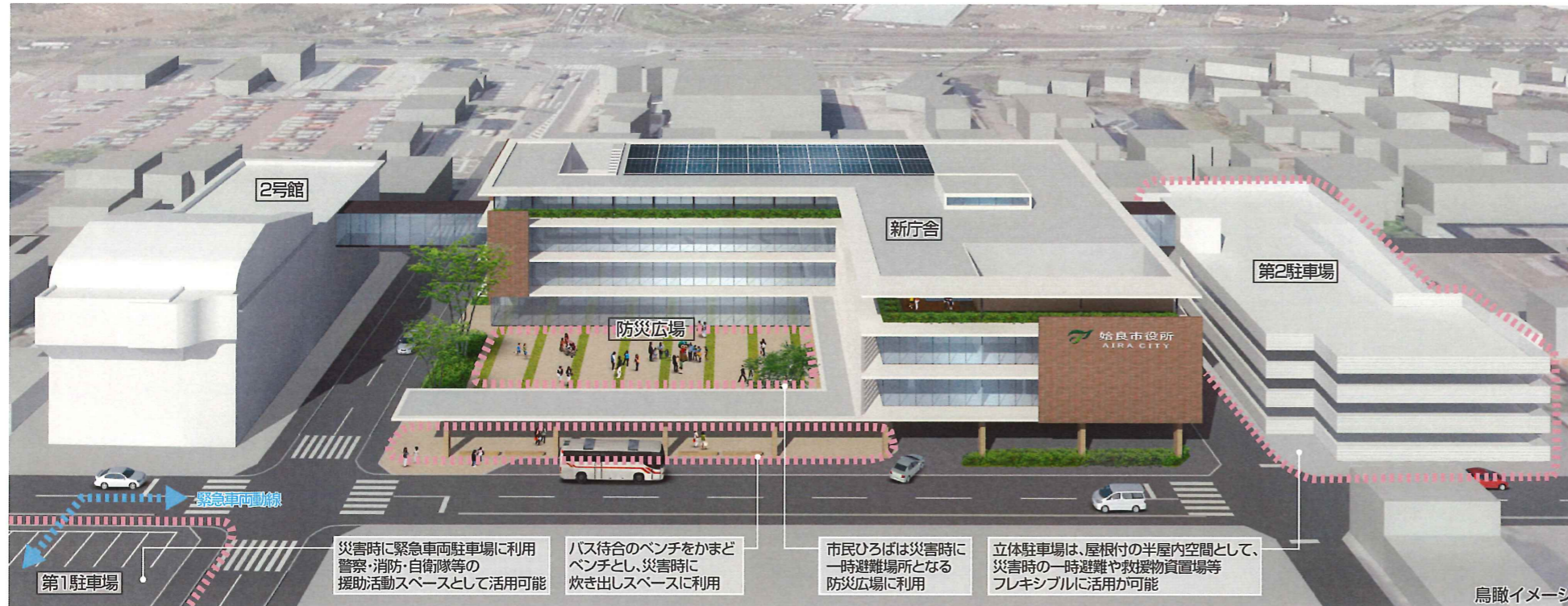


### ■後戻りのない段階的コストコントロール

●建設コストは基本設計段階で約80%が決まるため、設計初期段階からのコスト管理を重視し、特に影響が大きい躯体コスト・設備コストを重点的に比較検討します。



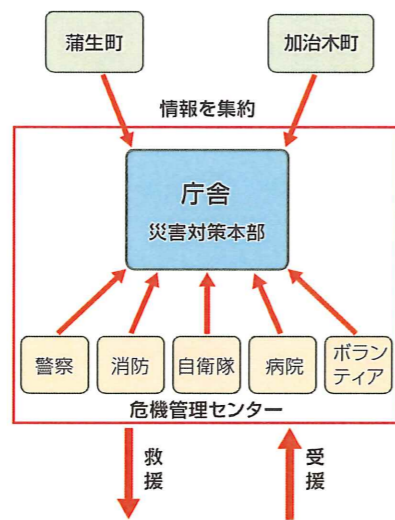
# 市民を守り、こころの拠りどころとなる「防災拠点庁舎」



## 1 庁舎全体で災害に向き合う

### 「危機管理センター」の機能を備える庁舎

- 市庁舎として日常の使われ方に加えて、**危機事案の発生時に迅速な初動**が行えるよう、速やかに「危機管理センター」へ転換できる設えを、予め設ける庁舎計画とします。
- 市域の広い始良市にあって蒲生町や加治木町からの被災情報を集約し、対策を検討、立案、指導する「災害対策本部」、警察や消防、自衛隊、病院などが詰める「災害対策室」、正確な情報を発信するための「プレスセンター」、さらには、訪れるボランティアの受け入れや災害などの情報を発信するスペースを設けます。



### 災害対策本部となる 4階「市長室+庁議室+執務室」

- 4階の市長室、庁議室、執務を機能転換し、災害対策の中核を担う「災害対策本部」を設置します。
- 防災無線室を隣接させて、迅速な情報発信を可能とします。防災備蓄倉庫も隣接させます。

### 防災対策室となる 3階「職員カンファレンス」

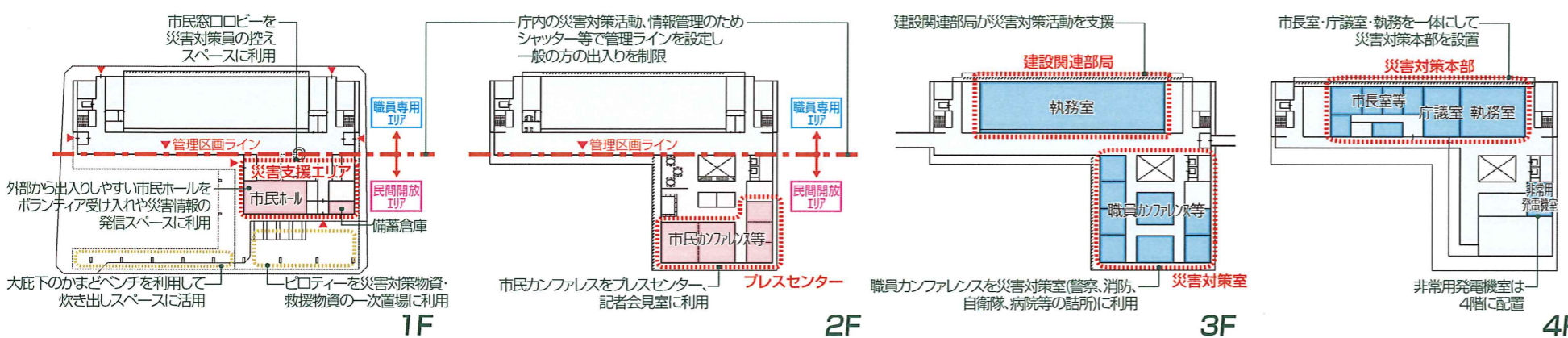
- 市と警察や消防、自衛隊、病院等の防災関係機関が緊密に連携するため、3階の職員カンファレンスを災害時に関係機関が個別に使用できる「災害対策室」とします。

### プレスセンターとなる 2階「市民カンファレンス」

- 外部に正確な情報伝達するため、危機管理センターを担う3、4階と分離した2階の市民カンファレンスに、災害対策関係者と動線が交錯せず、独立した区画が可能な「プレスセンター」を設けます。

### 災害支援エリアとなる 1階「市民ホール」

- 外部からアクセスしやすい1階の市民ホールを、ボランティアの受付、帰宅困難者の待機場所、安否確認や災害情報などの情報発信スペースとして使用します。



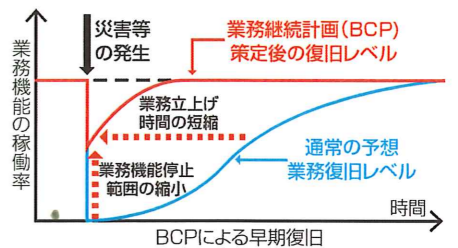
## 2 災害時に確実な業務継続性(BCP)を実現する庁舎

災害時に庁舎が求められる機能を**最大限**に発揮します。

- 災害時のスムーズな機能転換(BCP)
- 人々を守る安全な建物の実現
- いかなる時も機能維持する強固な庁舎

### 迅速な対応を可能にする災害時機能転換計画

- あらゆる災害リスクに対し**事前に必要な性能設定**を行うことで、災害発生後、**停止機能を迅速に復旧し**、必要な業務レベルに回復します。
- 災害発生時の**初動期から3ヶ月以上に及ぶ長期復旧活動期**においても、防災活動拠点として**業務継続**できる計画とします。



経過	災害発生時	災害発生直後	初動期 発生後～3日程度	展開期 3日～1週間程度	安定期 1～2週間程度	復旧期 2週間～3ヶ月程度
必要機能	初期性能確保 安全確保	災害対策本部設置 情報収集、発信 インフラ確保	各避難所、支所とのネットワーク構築 安否情報発信 炊き出し支援	設備機能維持 職員環境の確保 エネルギー節約 応援者受け入れ	物資受け入れ、配分 交通復旧開始 ボランティア受付	仮設住宅・被災証明・学校開始・帰宅支援 通常の復旧 段階的な復旧 可能な窓口形態
始良市庁舎に整備する設備・システム	災害対策本部(4Fを想定) 非常電源、情報端末、放送設備	災害備蓄倉庫、食料、飲料水、WCテント、毛布	ボランティア活動基地(市民利用エリア)	泊まり込み職員対応、仮設かまど	物資受け入れ	継続 継続 継続

### いかなるときも機能するノンダウン庁舎

- 災害時の**ライフライン遮断**時にも、独自のエネルギー供給フローにより**庁舎機能の維持**が可能な設備システムを構築します。

ライフライン	機能	バックアップ対策	新庁舎	防災広場
電力	電源確保 熱源・空調	電力引込の2系統化 非常用発電機(3日分) 太陽光発電	供給	供給
通信	通信継続	通信引込の多系統化、2方向化 サーバーへUPS電源・発電機電源供給	供給	供給
水道	飲料水 雑用水	受水槽(※) 雨水・井水利用	供給	雨水・井水利用
排水	トイレ	浄化槽(非常電源・配管ルートの二重化)	供給	マンホールトイレ

※可搬式浄化装置により、井水を浄化し、飲料水として利用します。

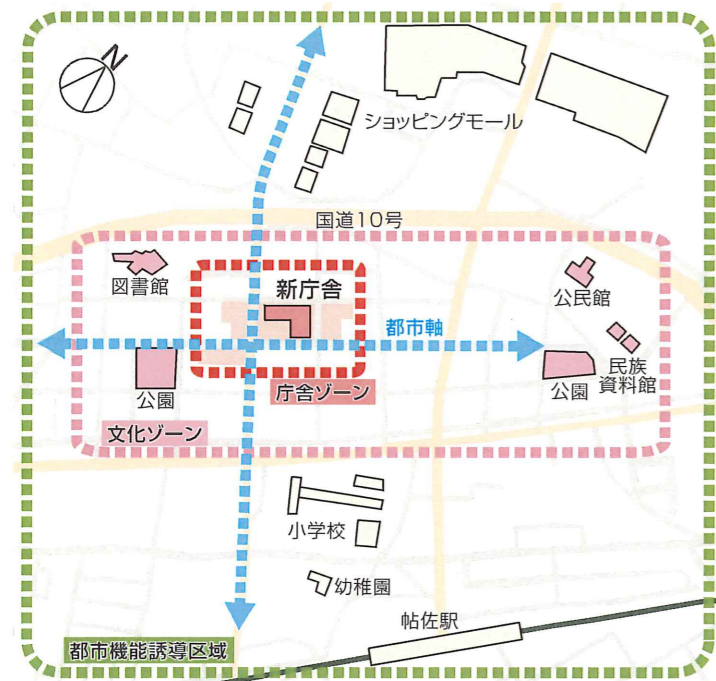
### 市民を守る堅牢な庁舎

- バランスが良くシンプルな、**免震構造**に適した平面計画とすることで、**堅牢な構造**とします。
- 「剛」な**構造フレーム**により、地震力はもちろん、**暴風時の風圧力**にも十分耐える構造とします。
- 耐震仕様の間仕切パーティションや設備機器の落下対策など、**二次部材の耐震対策**を行います。
- 液化化リスク**に対しても**安全な基礎計画**として、**杭基礎**を採用し、液化化した場合にも、**建物を確実に支持**できる構造とします。
- 外構計画は**液化化に配慮し**、**地盤改良**による**沈下対策**を行います。
- ゲリラ豪雨**に備え、**降雨量200mm/hに耐える雨樋**・外構排水計画を行います。

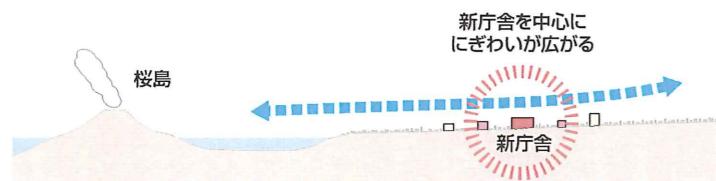
# 市民が集い、つながる「交流拠点庁舎」

## 1 街の交流拠点となる庁舎

### 街・ひと・文化をつなげる「住みよいまち・始良」



●「始良市立地適正化計画」における、「都市機能誘導区域」の中核として、また公共施設が集まる文化ゾーンの交流拠点として、「住みよいまち・始良」のシンボルとなる庁舎を実現します。



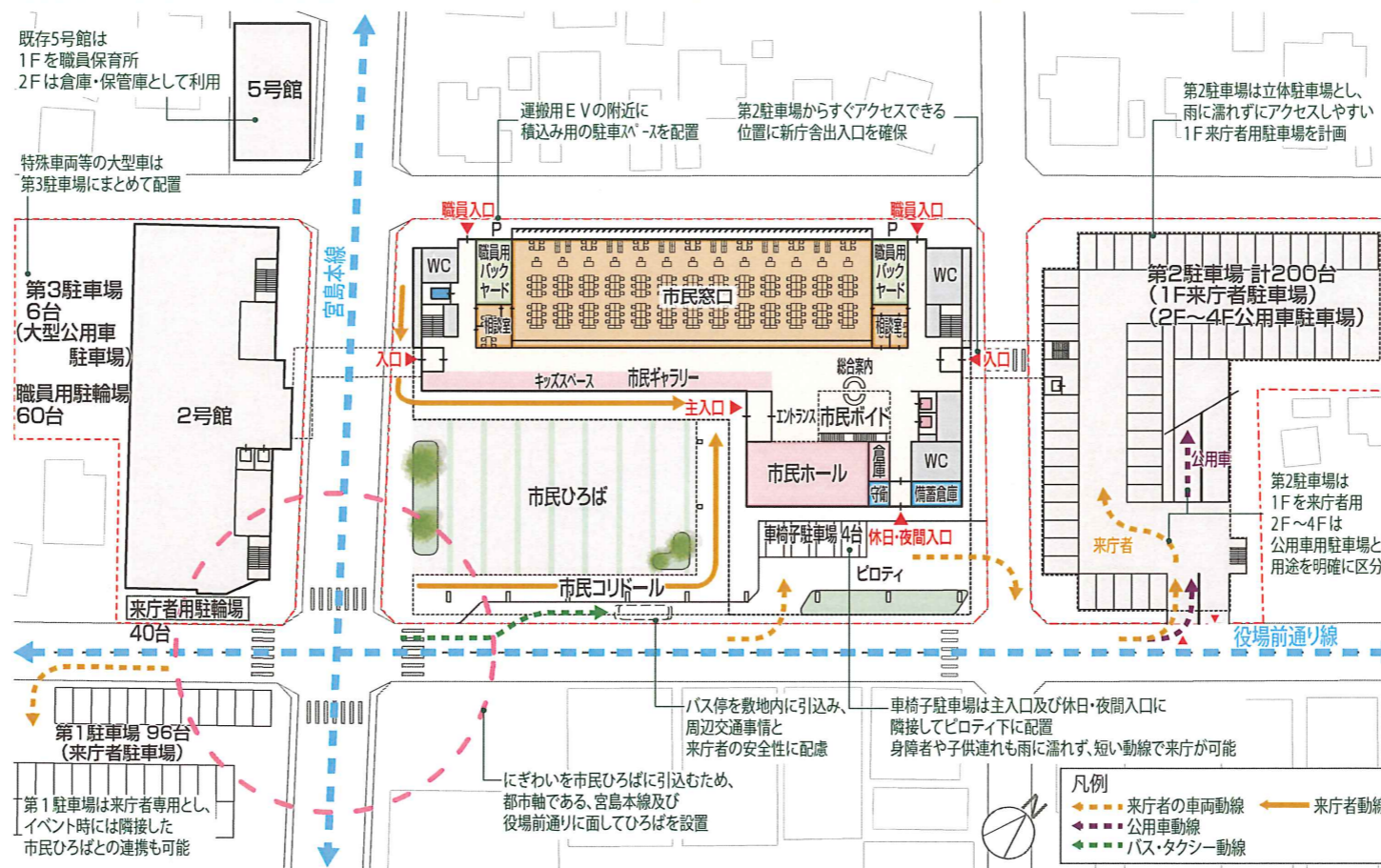
●鹿児島県民のアイデンティティである「桜島」とつながりながら、始良市民のアイデンティティとなる庁舎を目指します。

## 2 にぎわいを創出する7つの空間

### 集い・つながり・ひろがる「みんなの庁舎」

ひろばを中心に、にぎわいが生まれつながり、ひろげるために、7つの空間を設けます。

- 「市民ひろば」
- 「市民コリドール」(大庇・回廊空間)
- 「市民ホール」(多目的室)
- 「市民ギャラリー」(展示空間)
- 「市民カンファレンス」(協働空間・市民会議室)
- 「市民ボイド」(吹抜・エコボイド)
- 「市民ラウンジ」(桜島への眺望空間)



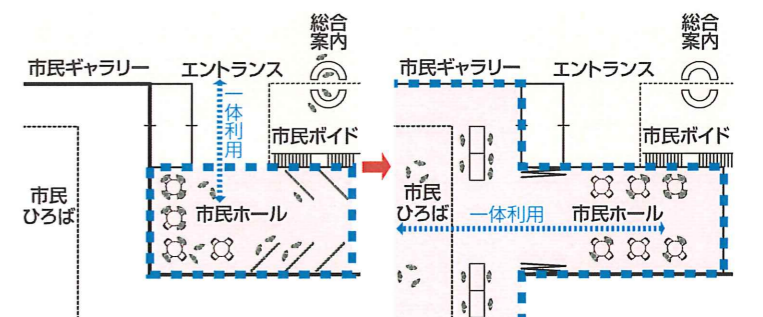
## 3 ひろばを中心に、にぎわいを創出

### 敷地特性を生かした配置計画

- 「市民ひろば」を都市軸である宮島本線と役場前通り線の交差点に面して配置し、街に対して開くことで、人々をみちびき入れ、誰もが訪れやすい憩いの場とするとともに、イベント時(くも合戦や伝統芸能(踊り等)のお披露目会、フリーマーケットや陶器市・朝市など)のにぎわいを街に広げることができます。
- 道路により分断している庁舎敷地を「市民ひろば」を中心に一体的な利用ができる配置計画とします。
- バス停やタクシー乗場、来庁者用の車寄せは、交通量が多い宮島本線ではなく、役場前通り線に面して設けることで渋滞を緩和することができます。
- 「市民コリドール」(大庇・回廊空間)を、バス停・タクシー乗場・来庁者用の車寄せに面して設けることで、雨に濡れずに来庁することができます。
- 市民ひろばに面して「市民コリドール」(大庇・回廊空間)を設けることで、人の流れをつくります。軒下空間は、来庁者同士の交流空間にもなります。

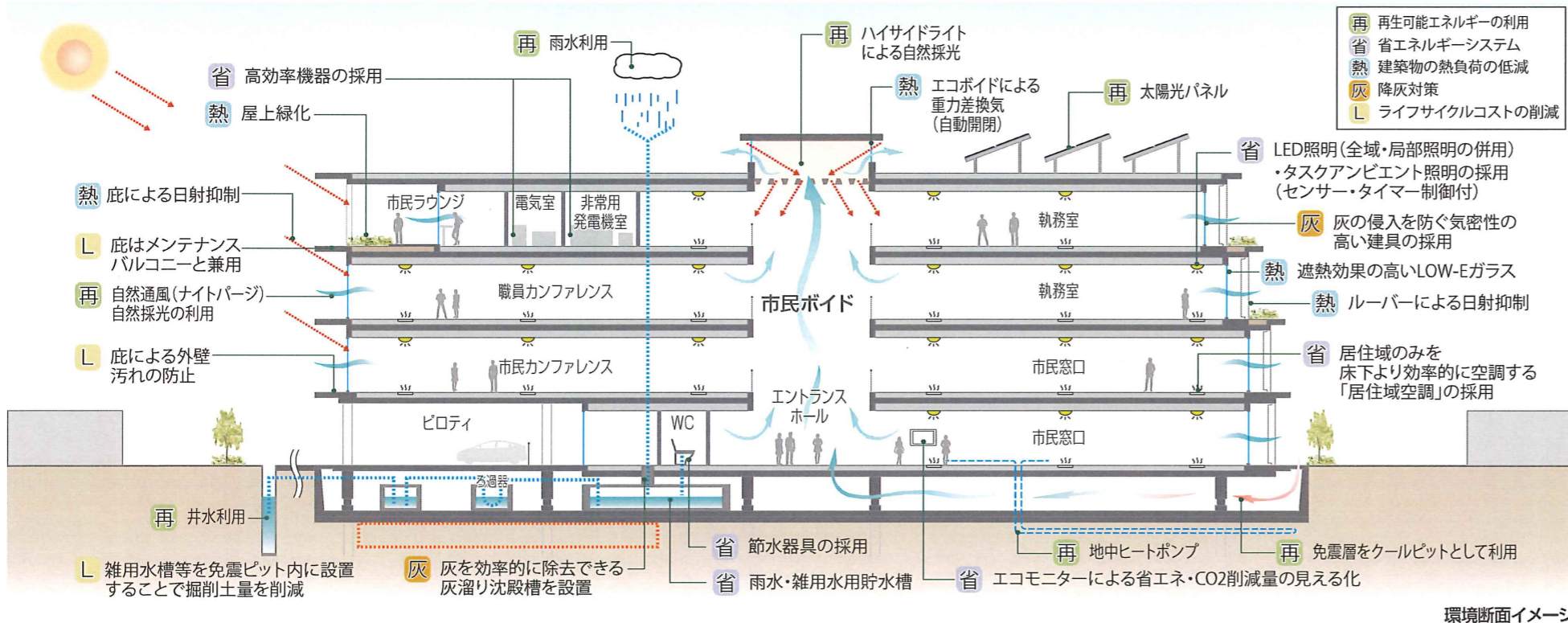
### ひろばを中心につながる市民エリア

●「市民ホール」(多目的室)は、市民ひろばに面する建具を開放できる設えとすることで、内部と外部の一体的な利用が可能です。市民ひろばと連携した屋外コンサートやイベント等が行える計画とします。



- 「市民ギャラリー」(展示空間)を市民ひろばに面して設けます。地域物産の展示などを行い、内外の視線のつながりと一体感が生まれる計画とします。
- 「市民カンファレンス」(協働空間・市民会議室)を広場に面する2階に設けます。市民ひろばのにぎわいが見える位置とすることで、庁舎と市民の一体感を生むことができます。
- 「市民ボイド」(吹抜・エコボイド)エントランス上部に最上階までつながる吹抜を設け、各階に設けた市民エリアを有機的につなげる計画とします。
- 「市民ラウンジ」(桜島への眺望空間)を市民ボイドにつながる4階に設けます。鹿児島湾を介して地域のシンボル桜島を望むことができます。

# ライフサイクルコスト(LCC)の低減と、始良市の風土と共生する「環境配慮型庁舎」



環境断面イメージ

## 1 LCCの低減に配慮した市民に長く愛される庁舎

### 合理的な構造計画によるインシャルコストの低減

- 新庁舎の主体構造は、近隣の地質データより40m以深と想定される支持地盤までの杭コストの低減(建物軽量化)やロングスパンに適した「鉄骨造」を採用し、免震上部構造に必要な「固い」構造を経済的、合理的につくりまします。
- 塩害対策として外周部の鉄骨には、錆止塗装+耐火被覆+天井・床仕上げを施すことで耐久性の高い構造躯体を確保します。

構造種別	RC造 (アスベスト 鉄筋コンクリート造)	PC造 (プレキャスト コンクリート造)	S造 (鉄骨造)
構造性能	○	○	○
耐久性	○	◎	◎
基礎の負担 力(柱1本あたり)	△重	△重	◎軽
コスト	○	△	◎
工期	△	○	◎

### 長寿命庁舎を実現する建築技術

- 火山灰が溜まりにくく除去しやすい庁舎とします。縦樋を經由して雨水とともに流れ落ちた一部の灰は、地表面に設けた灰溜りに沈殿させ、効率的に除去できる計画とします。
- 各階の外部に廻した庇を兼ねたバルコニーの採用により、外部ガラスや外壁の清掃が容易な計画とします。
- 外壁仕上げは防汚性・清掃性の高い仕上げとし、汚れが目立ちにくい色彩計画を行います。

- 構造体を残しながら内部の間仕切壁や設備機器を自由に変更できる「スケルトン・インフィル」の手法により、改修時のコストを削減します。
- 配管・配線等の設備スペースにゆとりをもたせ、将来の設備増設や機器更新が行いやすい計画とします。
- 大規模修繕の頻度を削減するため、きめ細やかなメンテナンスによって建築・設備を定期的に更新する効率的な長寿命化計画を提案します。

### 高効率なエネルギー手法によるランニングコストの低減

- 自然風、自然光を採り入れ、初期投資とランニングコストの効果を見極めた最適なエコシステムを提案します。
- 計画時において、エネルギー消費量を50%以上削減し「ZEBReady」を実現します。

- BEMS(エネルギー管理システム)を導入し、定期的な運用の最適化を行い、ランニングコストを縮減します。
- エネルギーの使用状況が見られる端末を設置し、市民・職員の省エネ意識の向上を図ります。

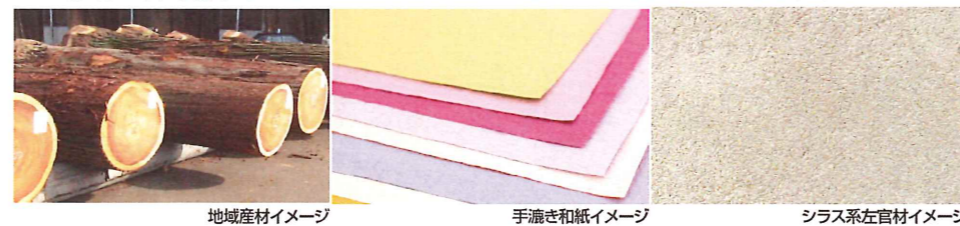
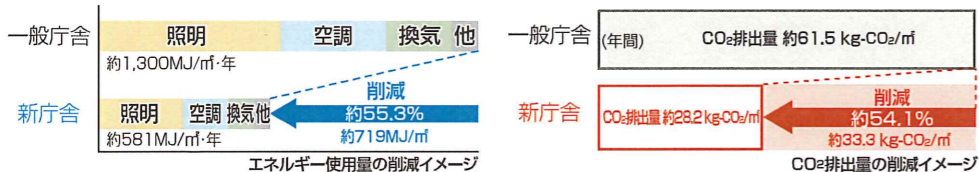
### 始良市の豊かな自然の恵みや風土を取り入れたエコ庁舎

- 「市民ボイド」の吹抜を風の道として、自然換気を促進、冷房期間を短縮し、ハイサイドライトによる自然採光で昼間照明を補助します。
- 県産材である木材を内外装の一部にとり入れ、風土に根差した庁舎を創出し、地域の林業振興にもつなげます。

- 火山灰由来のシラスブロックやシラス系左官材、蒲生町の特産である手漉き和紙を内装に使用し「地材地建」の市民に親しまれる庁舎とします。
- 加治木町の龍門司焼を想起するような、外装タイルの使用など、地域のアースカラーを取り入れます。

### 最適な環境手法によるエネルギー使用量の削減

- エネルギー使用量を55.3%削減、CO2排出量を54.1%削減します。



## 2 人にも環境にもやさしい庁舎

### すべての人々に配慮した施設 / ユニバーサルデザイン

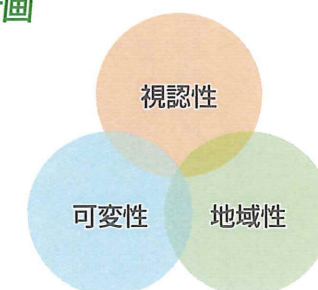
- 高齢化社会を見据え、豊富な医療福祉施設設計のノウハウを活用し、ユニバーサルデザインに配慮した施設づくりを行います。
- 身障者や高齢者、子供連れの来庁者に配慮し、庁舎1階ピロティに「思いやり駐車場」を設けます。
- 子供から高齢者まで誰もが安心して利用できるよう、キッズスペースや授乳室を整備し、多目的トイレは各階に配置します。



思いやり駐車場イメージ

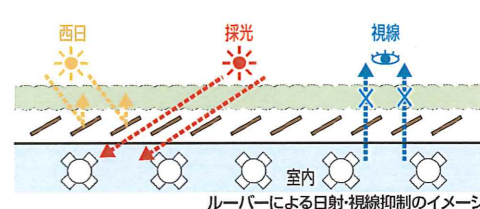
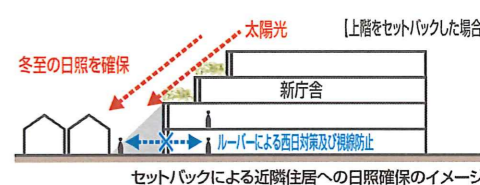
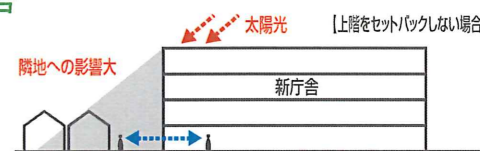
### 誰もが見やすくわかりやすいサイン計画

- 全ての来庁舎が快適に施設を利用できるように、利用者を目的地までストレスなくみちびく「視認性」、将来的にゾーニングの変更に対応しうる「可変性」、そして始良市の「地域性」を感じられるわかりやすいサイン表示とします。



### 近隣住居の住環境に配慮した庁舎

- 北西側の住宅地域に配慮し、3階・4階外壁部分を上階ほど徐々にセットバックしていく構成とし、建物の圧迫感を軽減させるとともに、冬至においても住居地域の日照規制に準ずる日照時間を確保します。またセットバック部分を屋上緑化することで近隣景観にうるおいを与える計画とします。
- 外壁面に設けたルーバーは、夏場の日射しや西日の抑制をするとともに、近隣住居にとって気になる庁舎からの視線を遮る目隠しとなり、プライバシーを確保します。



北西側から見た外観イメージ

# 市民サービスの向上を実現する「高機能型庁舎」

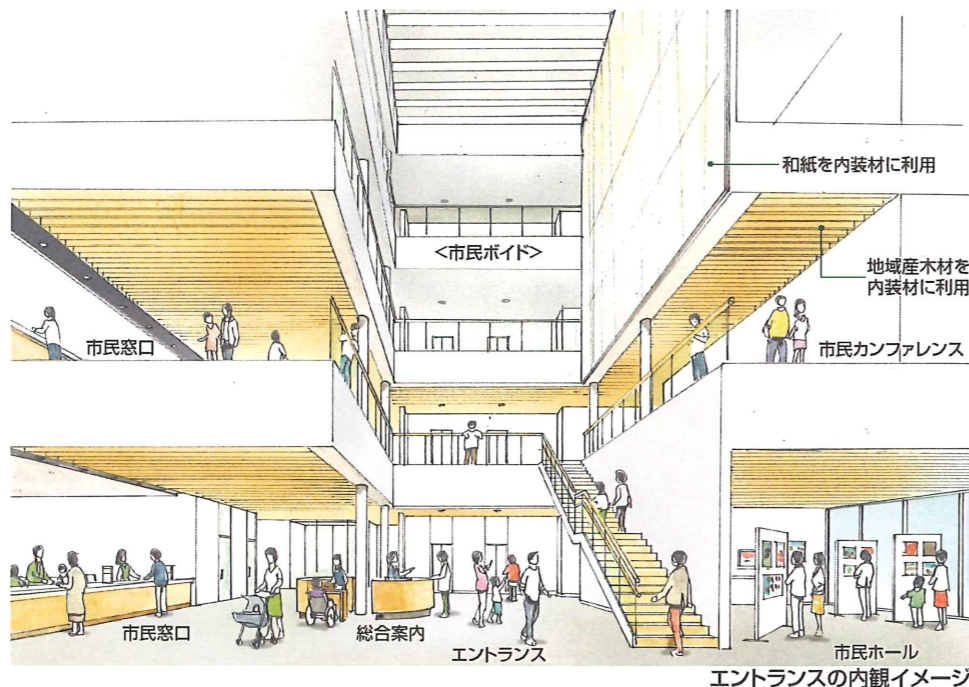
## 1 市民目線に立った誰もが利用しやすい庁舎

### ■行先が一目でわかるエントランス

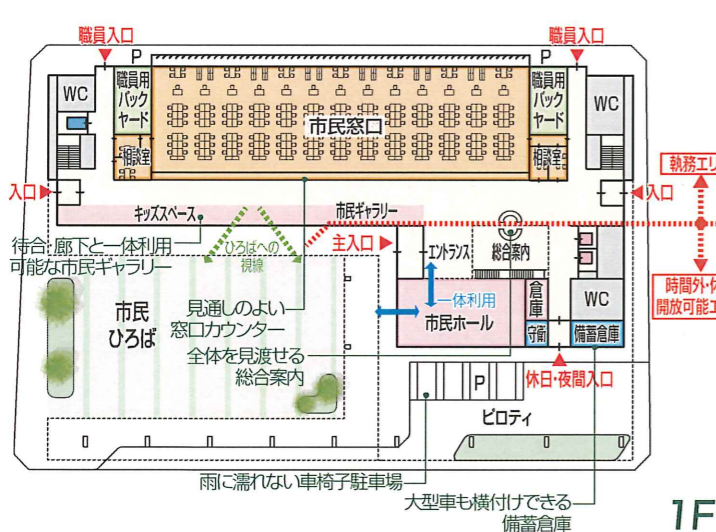
●総合案内をエントランスに面して配置します。総合案内から、各窓口やエレベーターなど、目的の場所が視認しやすい、わかりやすい空間構成とします。受付カウンターは360度対応可能な円形とします。

### ■始良市らしさを溢れる市民ボイド

●エントランスの上部は、最上階まで吹抜ける市民ボイドを計画します。立体的なつながりにより、施設構成を一目で把握できる、明るく開放的な空間を創出します。  
●吹抜けに面して、蒲生町名産の手漉き和紙を内装材に使用することで、始良市らしさを表現します。

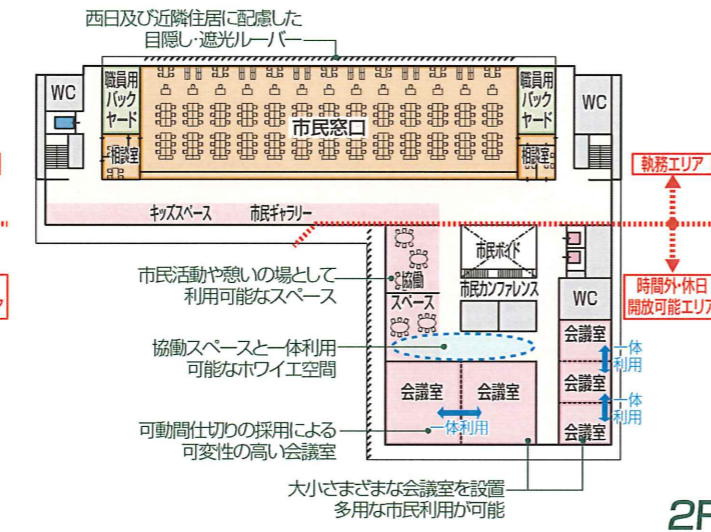
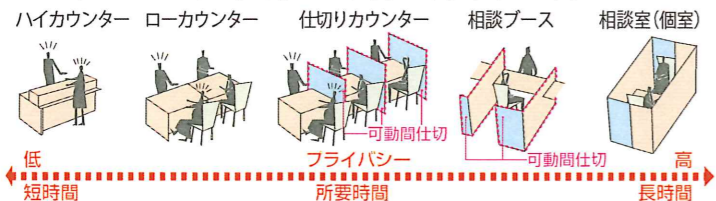


## 3 コンパクトで柔軟性を兼ね備えた平面計画



### ■利用形態に柔軟に対応する窓口・相談機能

●ブース型カウンターや相談室を充実させ、市民が気軽に相談しやすく、個別対応もしやすい計画とします。  
●将来的な市民ニーズの多様化や複雑化による窓口機能の変化に対応する可動仕切り仕様を基本とします。  
●証明書申請等の即時対応窓口と相談業務等の時間を要する窓口を区分し、業務の効率性を高めます。



### ■様々なにぎわいを演出する市民カンファレンス

●オープン型の協働スペースとすることで、廊下との一体利用やホワイエとしての利用、様々な利用形態に対応します。  
●市民ボイド(吹抜)に面して設けることで、庁舎全体ににぎわいを繋ぎ、ひろげる計画とします。  
●市民窓口・執務エリアの近くに配置することで、市民だけでなく職員も利用しやすい計画とします。

### ■業務効率を図る職員カンファレンス

●各階から利用しやすい3階に、職員専用の会議室及び保管庫等を集約することで、面積の効率化を図ります。  
●会議室には可動間仕切りを設け、大小様々な会議に対応可能な計画とします。

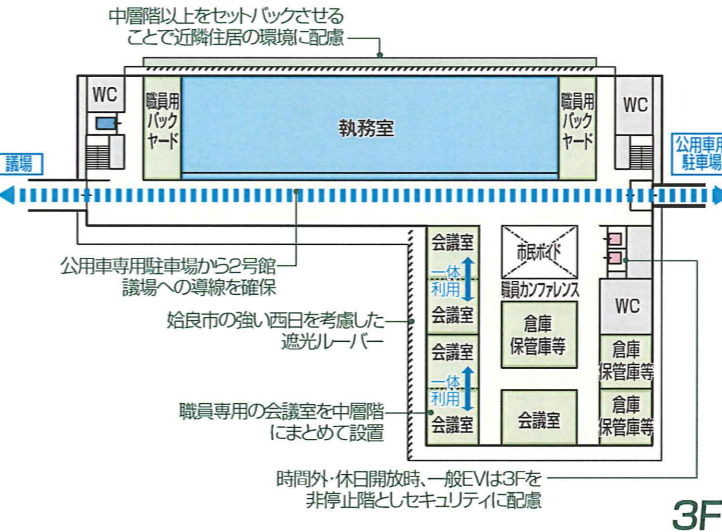
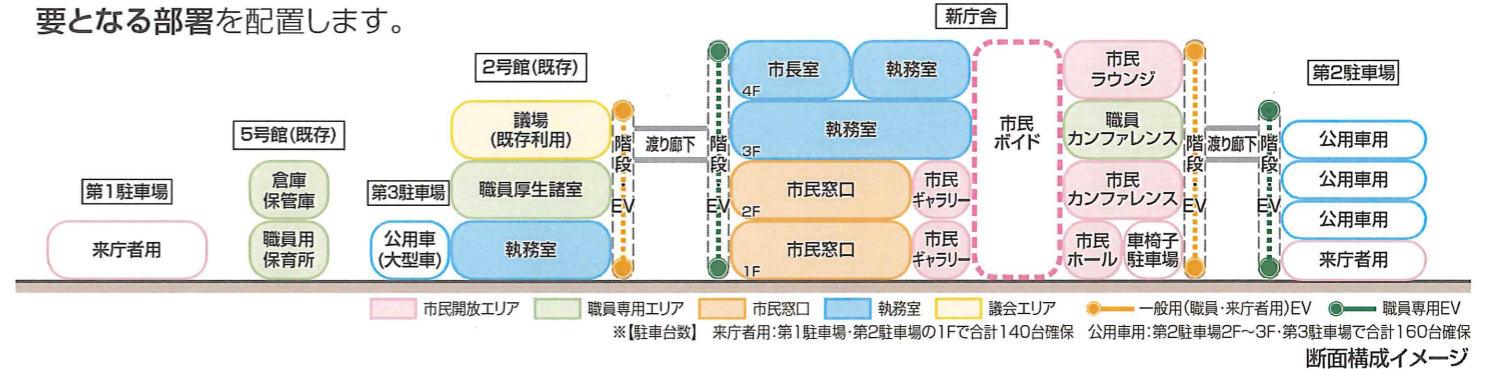
## 2 既存庁舎を有効活用した、合理的な断面計画

### ■利用者に合わせた断面構成と様々なアクセルートの確保

●新庁舎低層の1・2階部分に市民窓口及び市民スペースをまとめ、市民がアクセスしやすく、利用しやすい階構成とします。  
●新庁舎3階部分に執務室及び職員カンファレンス等を設け、4階には市長室及び災害時連携が必要となる部署を配置します。

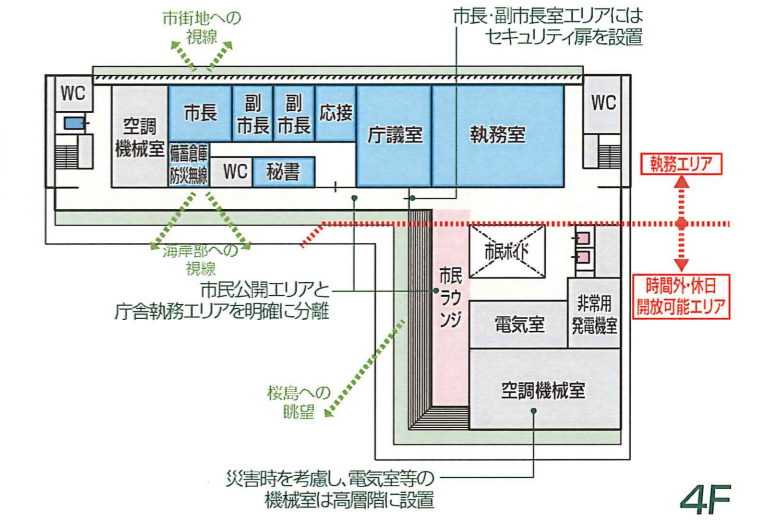
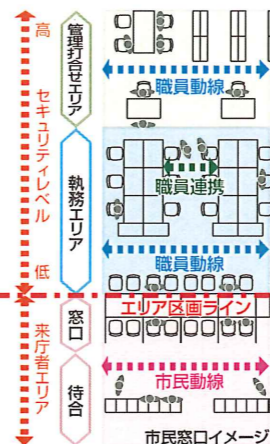
### ■既存庁舎を職員エリアとして利用

●公用車用立体駐車場から渡り廊下で新庁舎3階職員エリアに直接アクセスできる計画とします。  
●新庁舎3階渡り廊下より2号館3階の議会エリアへ職員が直接アクセスできる計画とし、来庁者との動線を分離します。  
●2号館2階に職員厚生諸室(食堂・更衣室・休憩室・宿直室等)を設け3階渡り廊下からアクセスすることで、来庁者と職員の動線を分離します。  
●育児中の職員が安心して復職できる環境を整備するため、5号館1階に職員用保育所の設置を検討します。



### ■職員連携と柔軟性を両立させた執務エリア

●東西にコアを配置することで、フロア中央に、整形で広い執務スペースを確保します。  
●執務エリアは無柱空間とし、将来の組織変更にも柔軟に対応可能な空間とします。  
●オープンな執務室に収納を適切に配置することで落ち着いて作業ができるほか、視線の抑制及びパソコンの覗き見防止にも配慮した計画とします。



### ■市民ラウンジからの始良市特有の眺望を確保

●最上階に市民ラウンジを設けることで、桜島への眺望を確保し市民の憩いの場を演出します。  
●建物上層階をセットバックさせることにより、市民ひろばと視線でつながる屋外スペースを整備します。

